

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和元年6月10日

京都府知事 様



提出者

住 所 大阪市中央区南船場1-14-10

氏 名 大成ロテック株式会社 関西支社

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

常務執行役員支社長 小窪初穂

電話番号 06-6262-1882

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大成ロテック株式会社 関西支社
事業場の所在地	大阪市中央区南船場1-14-10
計画期間	2019年4月1日 ~ 2020年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	完成工事高 8,788,000千円
③ 従業員数	117人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	がれき類⇒再生処理業者に委託し、再生砕石として再資源化 木屑⇒中間処理業者へ委託し、選別破碎、再資源化 廃プラスチック類⇒再生処理業者に委託し、再資源化 混合廃棄物⇒中間処理業者に委託し、選別破碎、再資源化

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
支社長 (廃棄物処理統括責任者)
↓
支社安全環境品質部長 (環境管理者：産業廃棄物管理担当)
↓
事業所長 (環境管理者：廃棄物管理担当)
↓
工事担当責任者 (産業廃棄物管理責任者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (平成30年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の排出量は、年度毎の請負工事受注量に左右され、排出量の削減が困難なため、工事検討会でロスのない工事方法や廃棄物の分別の検討をして、排出の抑制を行っている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 上記、平成30年度と同様に取り組む。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 例年、産業廃棄物に関する勉強会を年に4回実施している。 がれき類、混合廃棄物は分別の徹底を実施している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記に加えて、紙くずについても分別を実施する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後の予定はなし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 例年、産業廃棄物に関する勉強会を年に4回実施している。 がれき類、混合廃棄物は分別の徹底を実施している。 電子マニフェストの推進。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 上記、平成30年度と同様に取り組む。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施の予定はなし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	別紙のとおり
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 例年、産業廃棄物に関する勉強会を年に4回実施している。 処理においては、再生利用業者への処理委託を行い、再利用を実施している。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	別紙のとおり
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 委託先処理業者には、実施確認を実施する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	コンクリートがら	アスコンがら	管理型混合廃棄物
排 出 量	6.6t	2.97t	5.95t	4.4t	1038t	376t	14.3t

②計画

産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	コンクリートがら	アスコンがら	管理型混合廃棄物
排 出 量	6t	2t	5t	4t	934	338t	12t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	コンクリートから	アスコンから	管理型混合廃棄物
全処理委託量	6.6t	2.97t	5.95t	4.4t	1038t	376t	14.3t
優良認定処理業者への 処理委託量							
再生利用業者への 処理委託量	6.6t	2.97t	5.95t	4.4t	1038t	376t	14.3t
認定熱回収業者への 処理委託量							
認定熱回収業者への以外への 熱回収を行う業者への 処理委託量							

②計画

産業廃棄物の種類	建設汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	コンクリートから	アスコンから	管理型混合廃棄物
全処理委託量	6t	2t	5t	4t	934t	338t	12t
優良認定処理業者への 処理委託量							
再生利用業者への 処理委託量	6t	2t	5t	4t	934t	338t	12t
認定熱回収業者への 処理委託量							
認定熱回収業者への以外への 熱回収を行う業者への 処理委託量							